



鳥居の奥の公園

「昭和四十六年四月起工」とあります。町立公園として整備されたのが、ちょうど十年前のことでした。おおいからかさなつた、山はだをそのまま皿山公園の特色ある地形をかたちづくっています。

市内からおとずれる人たちの「蛇紋岩」は珪酸によるもの本によると、皿山公園は、遠足やハイキングにかつこうの場所として親しまれています。入口の石碑には、「昭和四十六年四月起工」とあります。

皿山公園は、遠足やハイキングにかつこうの場所として親しまれています。入口の石碑には、「昭和四十六年四月起工」とあります。

町史のひとこま

(第十四回)

皿山公園ができるまで

かさなる巨岩が圧巻

中には、これらの岩の配置を人為的なものと考える人もあるとか。さにあらず、「造化の妙」といいますか、自然の力でできあがったものです。

ところで、皿山公園の一帯は昔から「シシトキ場」と呼ばれています。福岡藩主黒田侯が若杉山で狩りをもよおすと、ここで「シシ」を解体するのが常だつたことから、この名がおこりました。

シシトキ場と呼ばれる

地質に詳しい甲種木の恵良弘司さんによると「崖錐」という地形で、岩石はどれも若杉山の上の方（十間戸樋付近）からこもれていますが、そのおおういくつもの巨岩が、そのまま皿山公園の特色ある地形をつくり出しています。

私たちも「蛇紋岩」と呼んでいますが、恵良さんの話では、市内からおとずれる人たちの「蛇紋岩」は珪酸によるもの本によると、皿山公園は、遠足やハイキングにかつこうの場所として親しまれています。入口の石碑には、「昭和四十六年四月起工」とあります。

皿山公園のあずまやのさらに上、松林の中に、鳥居と石のほこらがあります。皿山公園に遊んだ人も、さすがにこの一角までのぼる人はまれで、気がつかないことが多いようです。これ

は、江戸時代から上須恵字平原にあった山の神社が、昭和十五年奉遷（ほうせん）移転されたものです。

この「大山祇宮」（通称、山の神）は、安永五年（一七六〇）に眼科医田原養柏と上須恵村中が勧請（かんせい）したものです。



12月24日が山の神の祭り（昨年写す）

移ってきた山の神

恵の方におりていつたと聞くとホツとしたのだそうです。

まれました。しかし戦時下に銅像は無理ということになり、校長小林市助先生が養全さんに頼み込み、シシトキ場を小学校の学校林として寄付してもらいました。

学校林に寄付

シシトキ場は田原養全氏の所有地でしたが、小学校の学校林となり、皿山公園にうまれかわりました。

戦後は、学校林の經營も困難で、婦人会の人々による草刈りの奉仕で維持するなど、苦労をかさねました。

田原養全の屋敷には、殿さまの狩りにつかう獵犬がたくさん飼われていたといったことです。

殿さまが狩りに行くとなると岩で、公園のも付近の農民はたいへんです。旧のは「カンラン岩」が正しいのだとそうです。もの本によると、皿山公園は、遠足やハイキングにかつこうの場所として親しまれています。入口の石碑には、「昭和四十六年四月起工」とあります。

紀元二千六百年にあたる昭和十五年、当時須恵国民学校といっていた小学校では、記念行事のひとつとして、「二富尊徳銅像」をつくろうという計画が生